

## 排ガス規制強化が進むインド

### ◆ニューデリーで自動車・二輪車用燃料の品質基準を2年前倒しで引き上げ

インドの石油・天然ガス省は、2017年11月、ニューデリーで販売されるガソリンとディーゼルの品質を、新しい排ガス規制「バーラトステージ6」に対応した基準に18年4月から引き上げると発表した。インドは、17年4月に「バーラトステージ4」を導入し排ガス規制を強化したが、20年4月から「バーラトステージ6」へとさらに規制値を引き上げる計画となっている。ニューデリーでは、「バーラトステージ6」の導入に先駆けて、燃料の品質基準を引き上げる。

「バーラトステージ6」は、20年にEUに導入される排ガス規制「ユーロ5」に相当し、ガソリン車のNOxの排出量を60mg/km以下、ディーゼル車は80mg/km以下に抑える規制となっている。「バーラトステージ6」用の燃料の導入により、排ガスに含まれる硫黄分の量は1/5に減少すると見込まれている。

インド政府が積極的に排ガス規制を強化する背景には、深刻な大気汚染がある。WHO（世界保健機関）が16年に発表したデータによると、人口1,400万人以上の世界の大都市の中でPM2.5の年間平均濃度が最も高いのはデリーであり、中国の北京の約2.5倍の濃度となっている。このため、これまで先進国に比べて緩かったインドの排ガス規制は、急速に先進国並みに強化されている。

### ◆環境技術を持つメーカーにとってはビジネス拡大の機会

先進国の厳しい環境規制に対応した製品を開発しているメーカーにとっては、インドの排ガス規制の強化はビジネスチャンスになる。日野自動車は、17年11月、地場の自動車メーカーAshok Leylandに環境対応エンジンを供給すると発表した。また、ケーヒン、日本特殊陶業、愛三工業などの日系の部品メーカーも、電子燃料噴射制御装置など排ガス規制強化対応製品のインドでの生産開始や増産を相次いで発表している。

17年にはドイツを抜いて、中国、米国、日本に次ぐ世界4位の自動車市場となったインドでの環境規制強化は、自動車メーカーや部品メーカーの戦略に大きな影響を及ぼすことになる。

【今村弘史】